

科学技術・学術審議会 総合政策特別委員会への提言

白石 隆

今回の総合政策特別委員会欠席のため、前回配布された「検討論点（システム関連）」に関し、以下、提言いたします。

1. 「基本理念」のところ、「基礎研究力」を「基礎研究力・先端基盤技術」とする。

理由：科学技術基本計画では、安全保障・国家基盤技術が常に一つの柱となっていた。文科省参加の研究機関にも国家基盤技術の開発をミッションとするところも少なくないし、産業界からも国としての基盤技術投資は常に求められている。

なお、「両用技術」を「軍事技術」と同義とする議論があったが、これは誤りであり、反対する。技術が何に使われるかは、使い手による。また、日本学術会議が反対声明を出したから、日本では「両用技術」の研究はできない、というのも誤りである。学術会議は日本政府の政策に拒否権を持っていない。「両用技術」と言うかどうかはともなく、日本の大学、研究機関では、多くの先端的基盤技術の開発が行われている。いま、必要なことは、機微技術についての管理である。

2. 「若手研究者の自立促進・キャリアパスの安定」のところ、日本の大学の多様性を促進することを条件として、これを推進すべきである。そのために、（１）学部学生として学んだ大学とは違う大学の博士課程に進んだ学生、博士号を取得した大学とは違う大学でポスト・ドクとして研究活動を行う研究者を優先的に支援する、（２）「研究大学」を選択する大学（あるいは研究大学の学部・学科）は、中長期的に大学院大学への移行を準備する。

理由：日本の研究者コミュニティにおける流動性をいかに高め、日本の大学の多様性をいかに促すかは、現在、大きな課題となっている。この課題を忘れ、「若手研究者の自立促進・キャリアパスの安定」のためにフェローシップ、研究費補助等を行うと、日本の研究者コミュニティにおける流動性はますます低下し、日本の大学の多様性もいつまでたっても促進されないということになりかねない。

3 「我が国の強みを生かした研究戦略の構築」のところ、この目的達成の第一歩として、何が「我が国の強み」か、キメ細かく調べる必要がある。

理由：現在、私の知る限り、日本の科学技術のいかなる分野が「我が国の強み」であるか、システムティックな調査は行われていない。（「物理」「科学」「基礎医学」等のレベルで上位10%の引用論文のシェアでランク付けする等の研究はあるが、これでは粒度が荒すぎる。）こうした調査があって、はじめて、どこに「我が国の強み」がわかり、そこに優先的に投資することも可能となる。